

かん合立平葺金属屋根

MSタフビーム333

MSタフビーム333WS

(防水加工)

施工の手引

保存用

ファイルしてご使用して下さい



安全上のご注意(必ずお守りください)



警告

この表示の欄は、「取り扱いを誤ると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

- 高所作業を伴いますので、転落による事故防止のため、高所作業の正しい服装と保護具を着用し、足場の点検を行ってください。
- 2メートル以上の高所作業は、安全ベルト、命綱の携帯が法律で規定されています。事故の可能性がありますので、関係法規に従ってください。
- 金属製屋根・外装材ですので、けがを防止するために、必ず作業手袋を着用してください。
- 強風・雨天・降雪・雷鳴時の場合は施工しないでください。落下または落雷事故の恐れがあります。
- 雨や露で屋根面がぬれている場合は、施工しないでください。滑り落ちる恐れがあります。
- 金属屋根や金属部材は、電線等に触れないように取り扱いってください。感電の恐れがあります。
- 固定していない屋根材・役物の上には絶対に乗らないでください。
- 屋根材は風で吹き飛ばされないように設置してください。また風の吹いているときに持ち運ぶ場合、あおられないよう、足元を固めてください。
- 葺き上げた屋根面には物を置かないでください。ルーフィング上に屋根材を置くときは、安全を確認して滑り落ちないように固定してください。



注意

この表示の欄は、「取り扱いを誤ると、人が傷害を負う危険または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

- 製品の屋外保管の場合は防水シートで覆い、雨水に濡れないようにしてください。
- 防水のため施工の際は、葺き板の働き幅による正確な割付を行ってください。
- 屋根上での歩行は、屋根材に過度の付加が加わらないように注意してください。
- 断熱材貼り製品の場合、裏面や切断面に溶接の炎、火花などがあたる恐れがあるので、養生するなど特にご注意ください。
- 屋根上で作業中に出る加工片や切粉は、さびの原因となりますので、確実に取り除いてください。
- 異種金属との接触は、もらいさびの原因となりますので、避けてください。
- 現場加工時に、鉄板の切断面に生じたバリは、けがをする可能性がありますので取り除いてください。
- 下葺き材はアスファルトルーフィング940またはゴムアス防水シート以上の品質のものを使用してください。
- 施工したあとの屋根面の塗装に傷がつかないように注意してください。もし傷をつけてしまった場合は、必ず補修塗料で補修をしてください。
- シーリング材、補修スプレー、補修塗料などは、製品安全データシートに従って、正しくご使用ください。
- 落ち葉やごみなどは作業者の足を滑らせたり、目を傷つけたりして事故の原因となることがありますのでご注意ください。毎日の作業前・終了後は、現場の掃除をしてください。

免責事項

金属屋根材および外装材は、建築材料・製品として、十分満足できる品質・性能を備えています。正しい施工と適切な維持管理がなされることによって、初めて耐久性や耐候性、その他の機能が発揮されるものです。下記の項目に反した使用により不具合が発生した場合、弊社では責任を負いかねます。ご了承ください。

- 貴社の施工管理が十分なされなかったことに起因する場合。
- 施工店による、施工や取り扱いが原因で不具合が生じた場合。
- 入居者（管理人を含む）又は第三者による維持管理不行き届き並びに故意・過失に因る場合。
- 建物の構造上に起因する変形、変位または結露、下地材の腐朽等による不具合が発生した場合。
- 施工に起因する事故、および釘部のさび、切粉・加工屑・落ち葉・動物の排泄物・粉塵等が原因で汚れ等が発生した場合。
- 瑕疵を発見後、速やかに通知が出されなかった場合。
- シーリング部に不具合が発生した場合。
- 経年変化による軽度の色ムラ及び埃の堆積による変色や白化現象。苔、藻、カビ等の発生による汚水や変色。
- 建築基準法および関係法規に違反した使用により不具合が生じた場合。
- 天変地異・周辺環境・大気汚染等公害・塩害等に起因する特殊環境下で不具合が生じた場合。
- 契約当時、実用化された技術では予測することが不可能な現象に起因する場合。
- 屋根・外装材以外の用途で使用し、不具合が生じた場合。
- 水が溜まる状態の部分の塗膜損傷および電食作用が原因で不具合が生じた場合。
- 不適当な他材料（銅、鉛、銅イオンを防腐処理した木材等）と組み合わせて使用したことに起因する場合。
- 屋根工事完了後における増改築・補修並びに太陽光発電システムやアンテナ等の設置或いは付属品等の取付けに因る場合。
- 特殊環境地域（温泉場や絶えず蒸気等により製品が濡れている様な環境の地域、焼却炉付近、特殊ガス・熱・酸・アルカリ・塩類・その他腐食物質を発生する施設や工場並びに地域、塩害地区、海・河川等の周辺でしぶきがかかるような地域、煙塵及び金属粉・石粉が堆積する地域）における損傷。
- その他弊社の責に因らない損傷に起因する場合。

その他ご不明な点がございましたら弊社にご相談ください。

[1] 施工の手順

(1) 段取りと施工の手順……………3

(2) 施工上のご注意……………3

[2] MSタブビーム333製品仕様

(1) 葺き板本体……………4

(2) 付属部品……………4

(3) アーチ曲げ加工……………5

(4) 屋根納め構成図……………5

(5) ルーフィングの設置と割付け…6

(6) 重ね部の^{かんこう}嵌合要領……………7

[3] 各部位の納め方

(1) 軒先部構成図……………8

(2) 軒先納め……………9

(3) 軒先部・妻側部の納め……………9

(4) 妻側納め……………10

(5) 棟納め構成図……………11

●棟納め(A)……………11

●棟納め(B)……………12

(6) 水上部の雨押え……………13

(7) 流れ方向の雨押え……………13

(8) 谷納め……………14

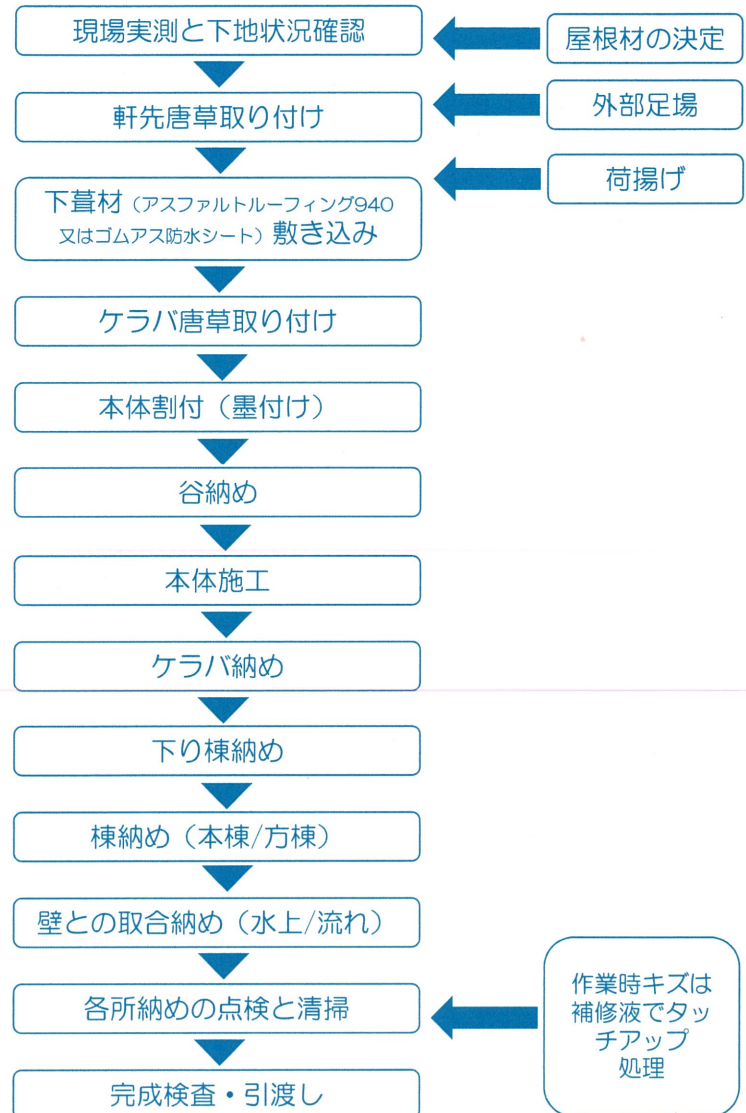
塗装鋼板注意事項……………15

(注) この施工の手引きは標準施工例です。

屋根材、役物等の納めについては、各現場の状況に応じて施工してください。

[1] 施工の手順

(1) 段取りと施工の手順

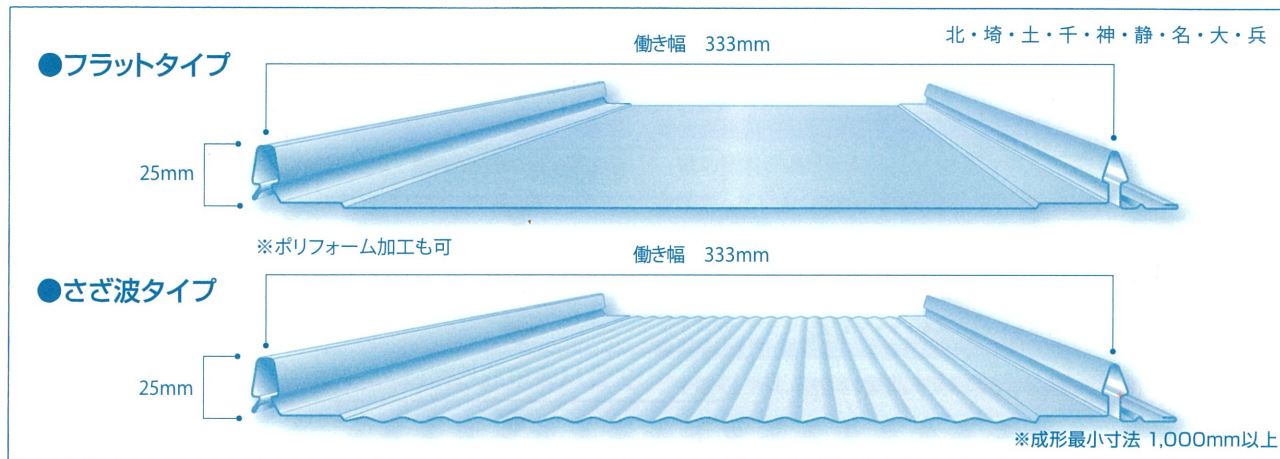


(2) 施工上のご注意

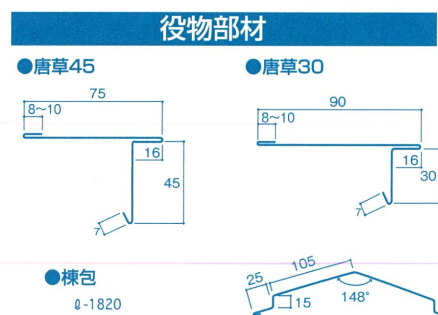
1. 屋根勾配は、5/100以上で施工してください。
2. アーチ曲げ加工は7mR以上（たてさざ波）
3mR以上（横さざ波は別途ご相談）にしてください。
3. 下葺き材はアスファルトルーフィング940またはゴムアス防水シートをご使用ください。
4. 葺き板の重ね部を歩くと歪みが生じ、雨漏りの原因となることがありますので、必ず溝部を歩いてください。
5. 鉄板の切り屑・釘などの金属はもらい錆の原因になりますので、確実に取り除いてください。
6. 作業中に生じた傷は、補修液を塗布してください。
7. 緩勾配の場合、軒先唐草と下葺防水材の間に、止水のため接着剤を挿入してください。
8. 強風対策として、屋根周辺部のビス止めは細かいピッチでの補強をお願いします。
9. 積雪地域については地域に合った納めをご検討ください。

[2]MSタフビーム333製品仕様

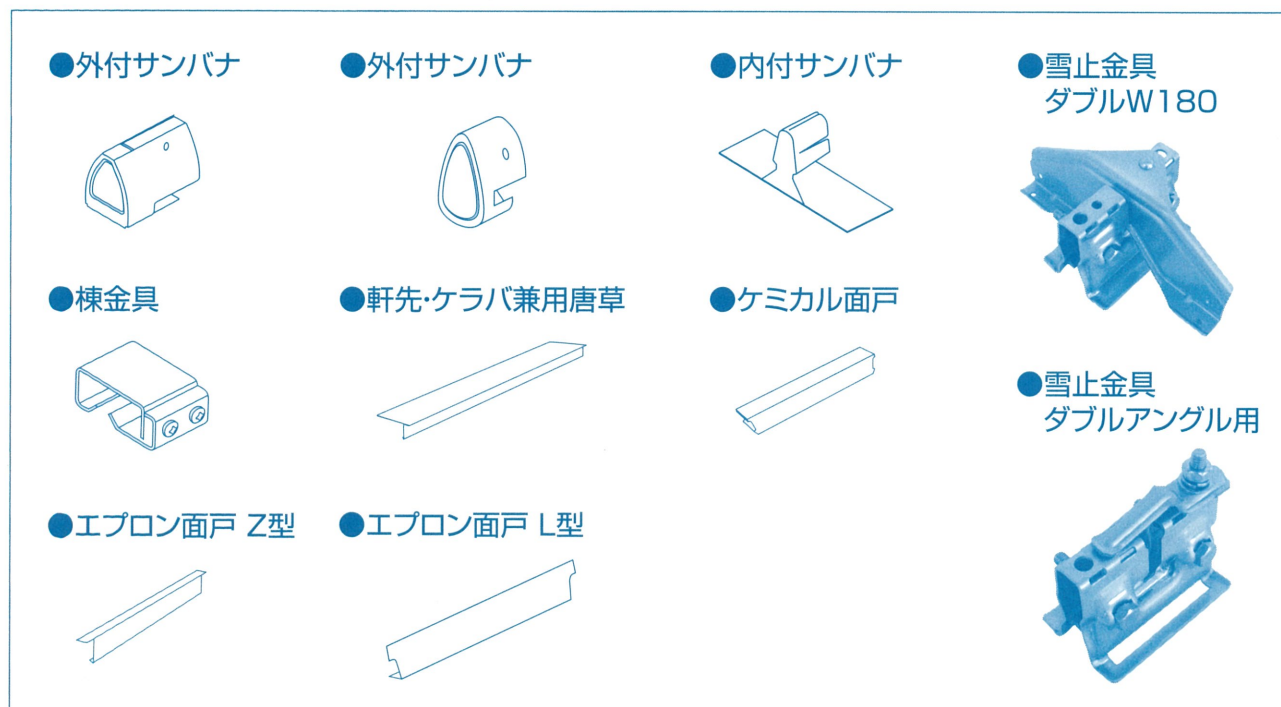
(1) 葺き板本体



製品仕様			
板	厚	0.35、0.4、0.5mm	
働	き	幅	㎡ 当 り 重 量 0.35mm—4.04kg 0.4mm—4.58kg 0.5mm—5.66kg
原	板	幅	
屋	根	の 勾 配	
			5/100以上
最 小 曲 げ 半 径	7mR以上(たてさざ波)、3mR以上(よこさざ波は別途ご相談)		
成 形 最 小 寸 法	1,000mm以上		
使 用 材 料	月星GLカラーSERiOS Prime、SGLカラーSERiOS Prime、ガルバリウム鋼板、月星スワンカラー、その他各種鋼板		



(2) 役物部材

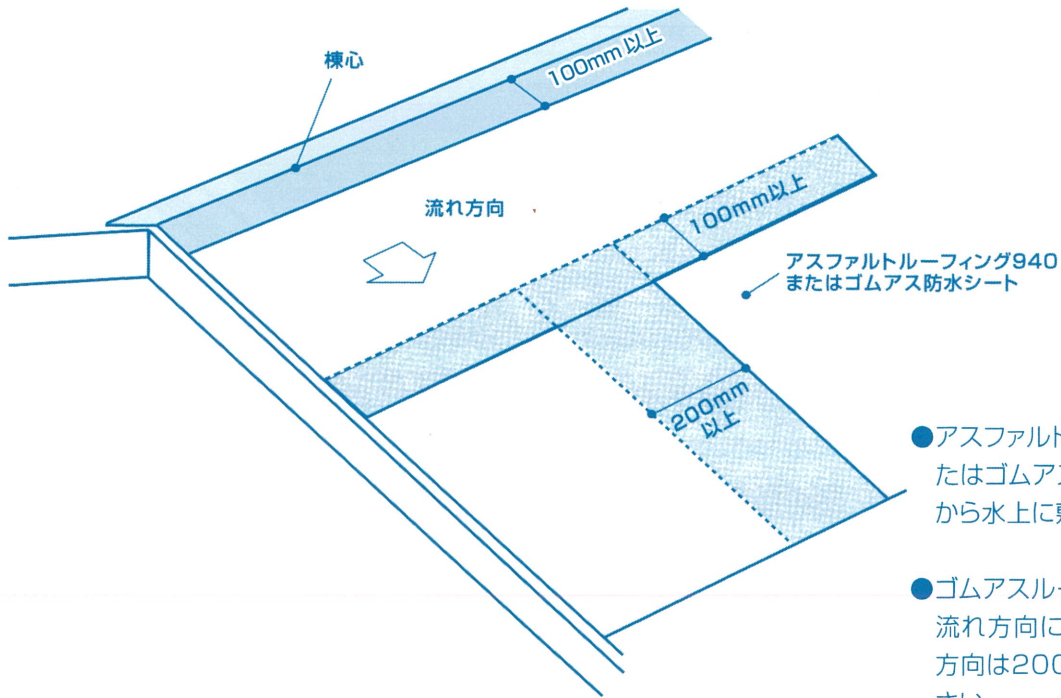


最小曲げ半径7mR以上(たてさざ波)
3mR以上(横さざ波は別途ご相談)

25

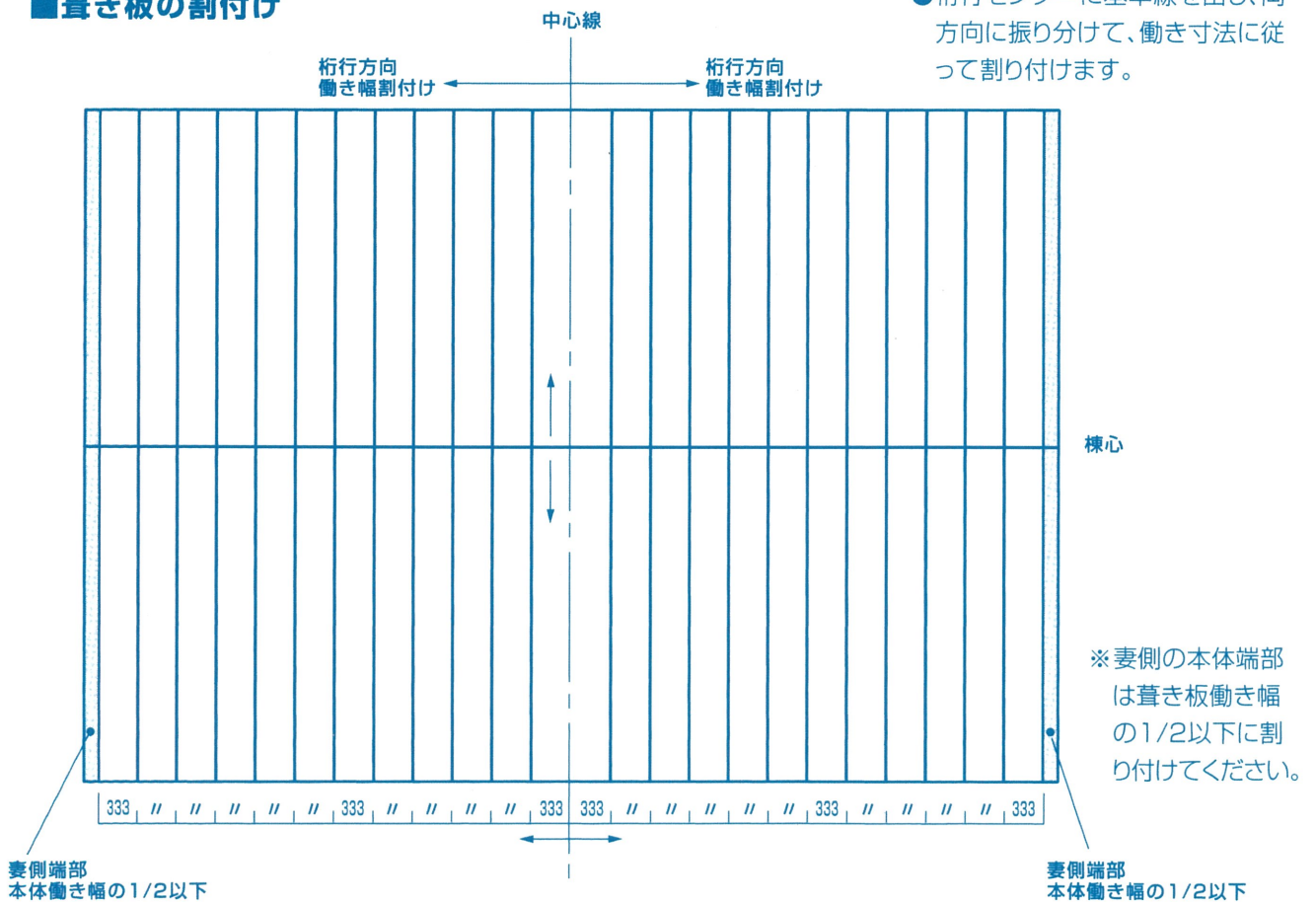
333(働き幅)

(5) ルーフィングの設置と割付け



- アスファルトルーフィング940またはゴムアス防水シートを、水下から水上に敷き込みます。
- ゴムアスルーフィングの重ね代は、流れ方向に100mm以上、桁行方向は200mm以上取ってください。

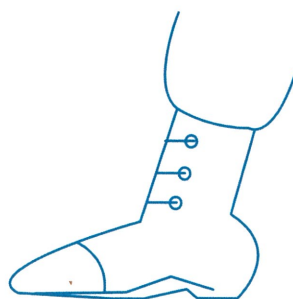
■葺き板の割付け



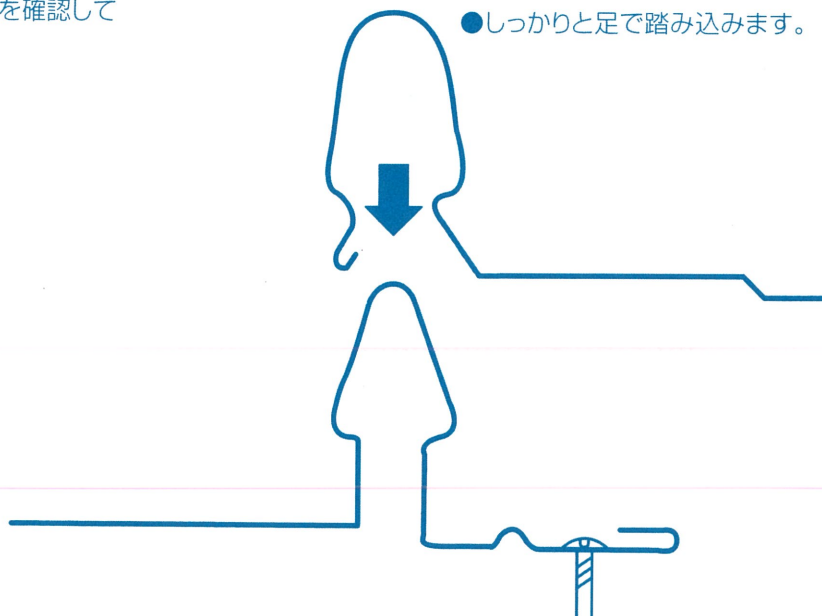
(6) 重ね部の^{かんごう}嵌合要領

●MSタフビーム333は、馳締め^{かんごう}機不要の嵌合式たて葺き屋根です。

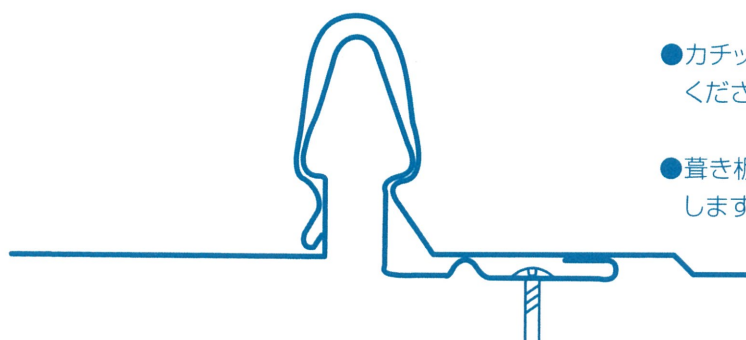
●^{かんごう}嵌合部は足で踏み込み、完全に重ね合わさったことを確認してください。



●しっかりと足で踏み込みます。



■^{かんごう}嵌合部詳細

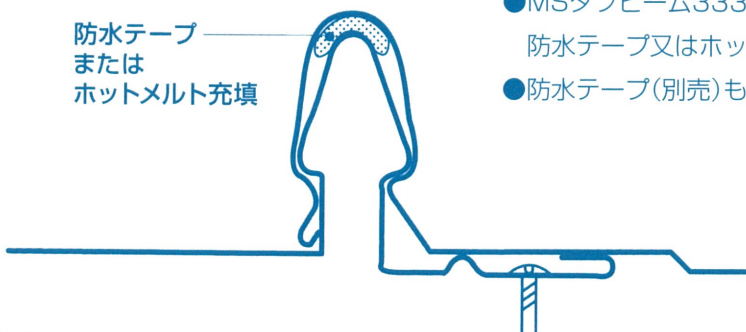


●カチッと音がするまで踏み込んでください。

●葺き板ががっちりと緊定して完了します。

■MSタフビーム333WS (防水加工)

防水テープ
または
ホットメルト充填



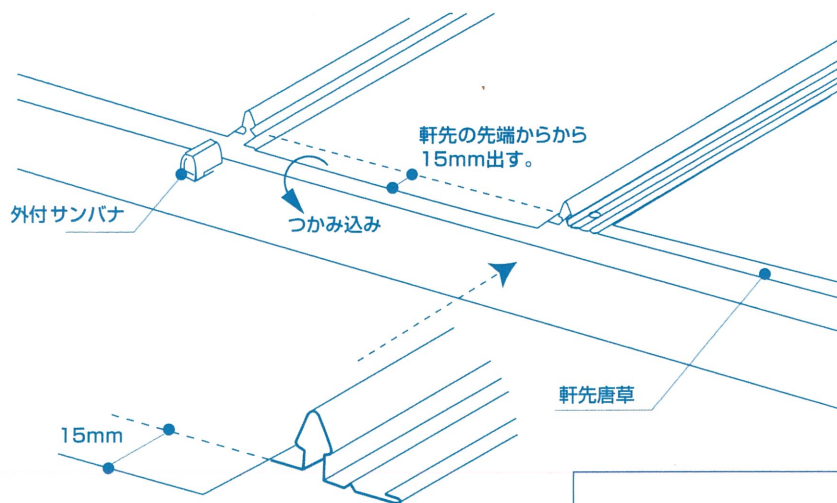
- MSタフビーム333WS防水工法は、^{かんごう}嵌合部に防水テープ又はホットメルトが充填されています。
- 防水テープ(別売)も用意があります。

[3] 各部位の納め方

(1) 軒先部構成図

■サンバナは外付けと内付けタイプの2種類があります。

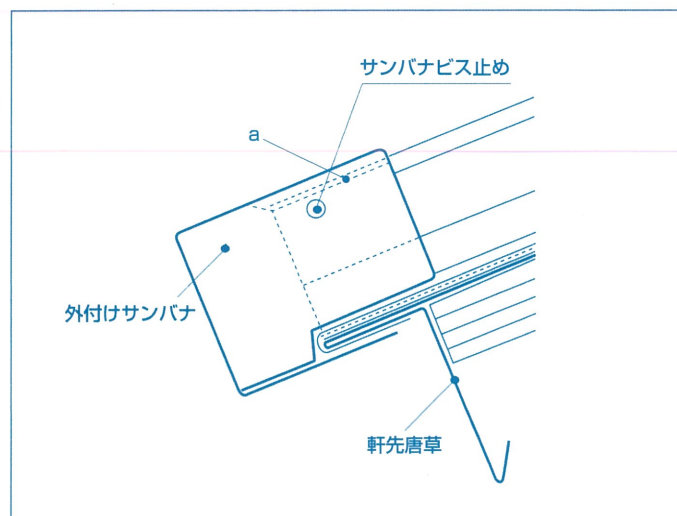
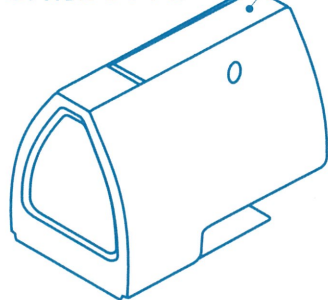
1) 外付けタイプ



●葺き板の切り欠き部を軒先唐草につかみこみ、サンバナの上部のaの部分^{かんこう}を嵌合部の中に差し込み、外側にはめ込んでサンバナビス等で止めます。

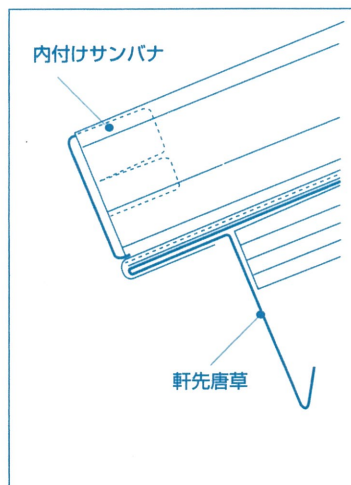
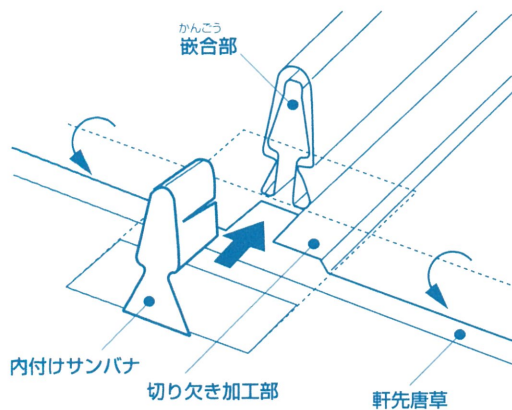
●ビス等頭は補修塗料でタッチアップしてください。

●外付けサンバナ



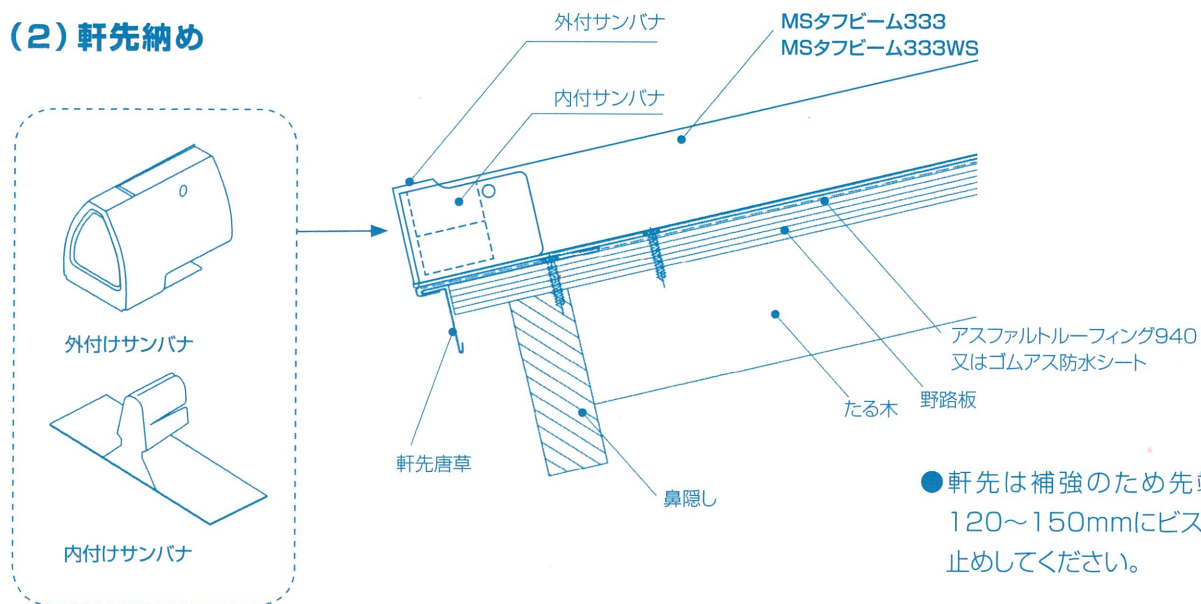
●外付けサンバナは軒先嵌合部に差し込んでサンバナビス等で止めてください。

2) 内付けタイプ



●葺き板の切り欠き部と軒先唐草の間に差し込み、内付サンバナを嵌合部の内側に挿入し、切り欠き部と共に軒先唐草につかみ込みます。

(2) 軒先納め

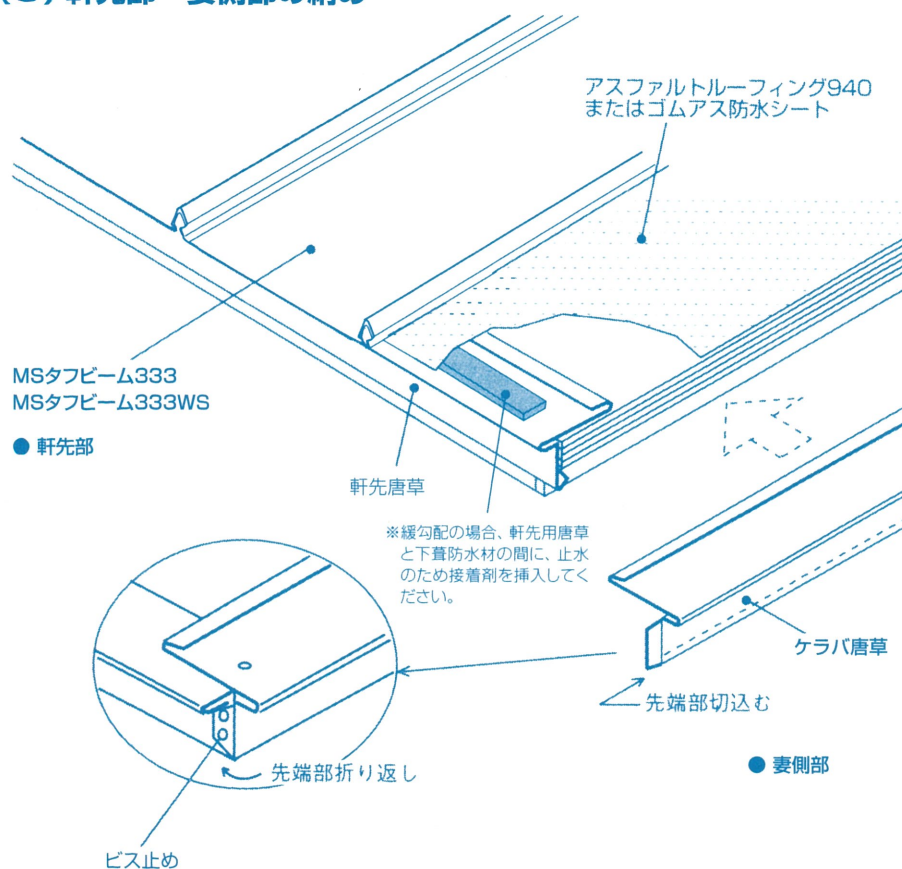


● 軒先は補強のため先端部から120～150mmにビスまたは釘止めしてください。

● 二段目以降は450mmピッチに固定します。

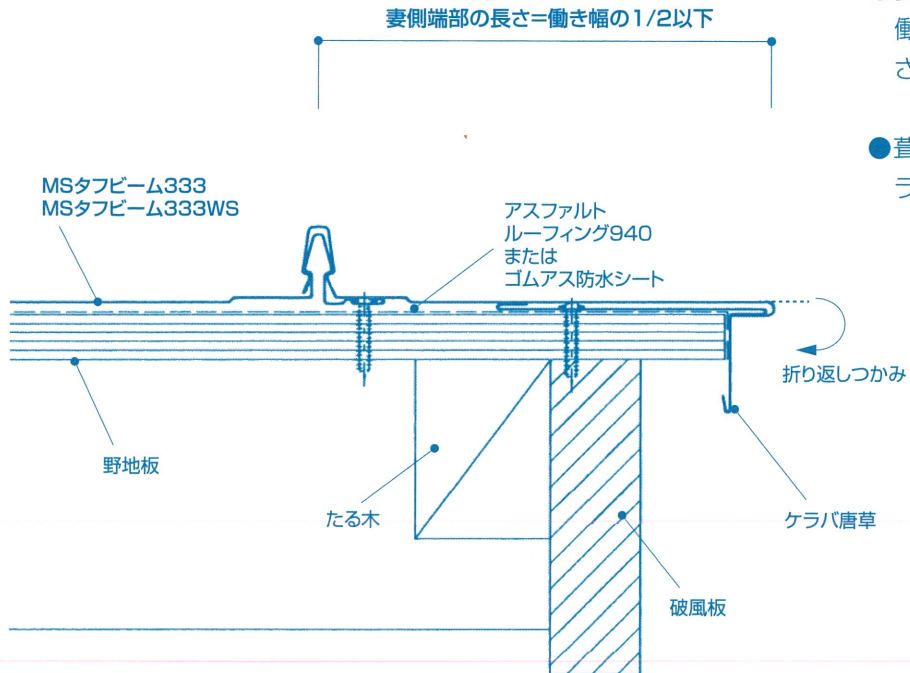
● 葺き板はつかみ代として溝部を15mm程残して隅切りをします。残した部分を折り曲げ、軒先唐草につかみ込みます。

(3) 軒先部・妻側部の納め



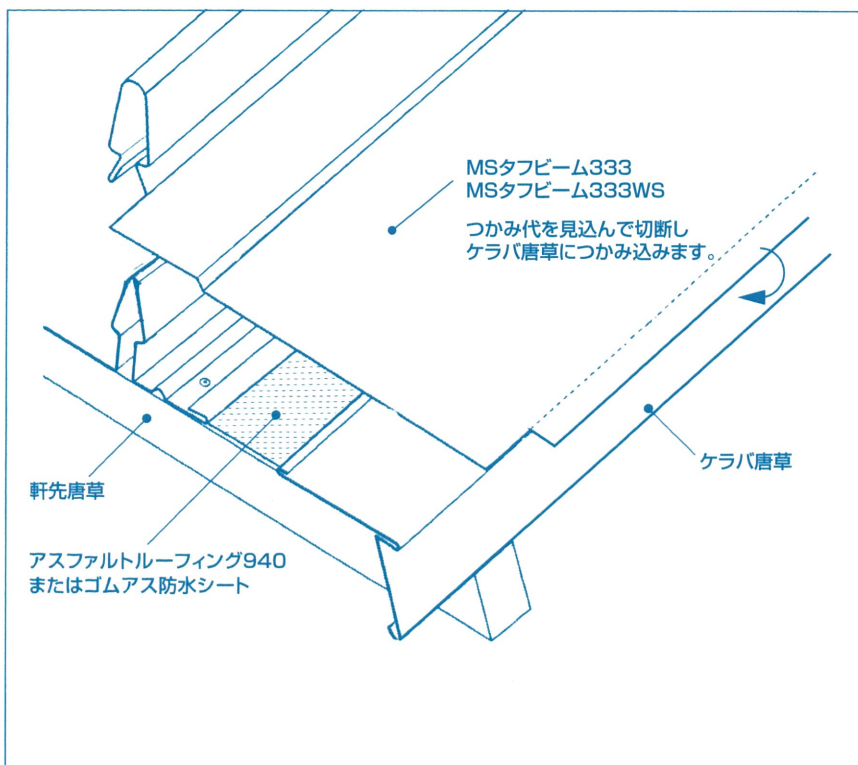
● 妻側はケラバ唐草を差し込み、軒先部分は先端を折り返して、ビス止めします。

(4) 妻側納め

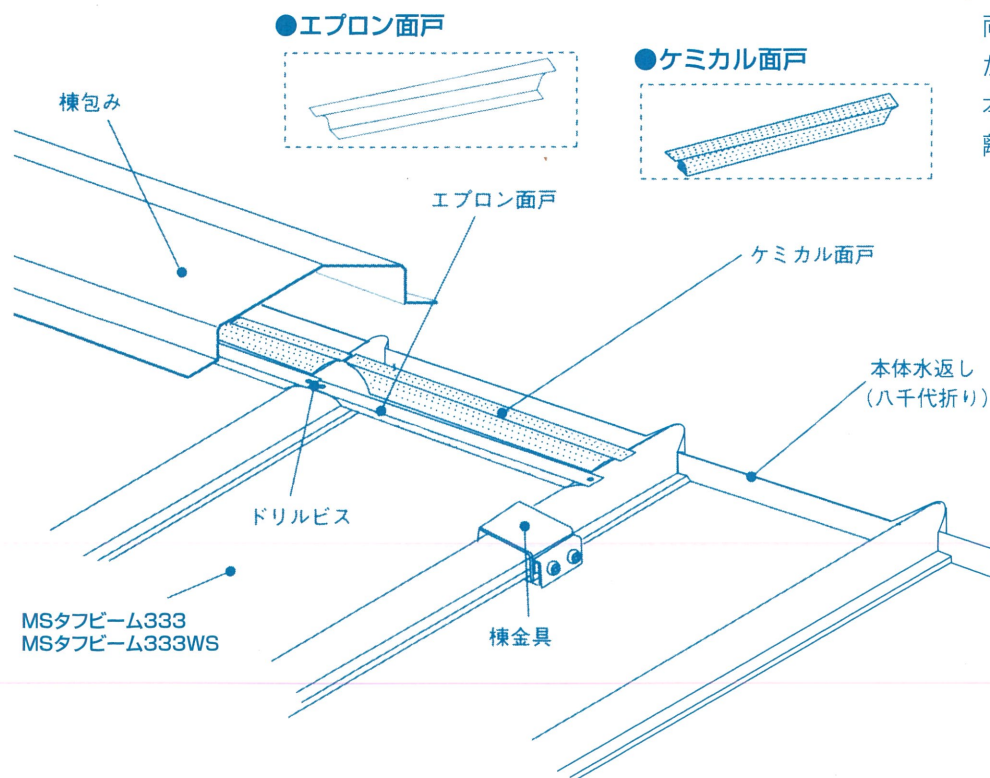


●妻側の葺き板の端部は、必ず働き幅の1/2以下としてください。

●葺き板の端部は、折り返してケラバ唐草をつかみ込みします。

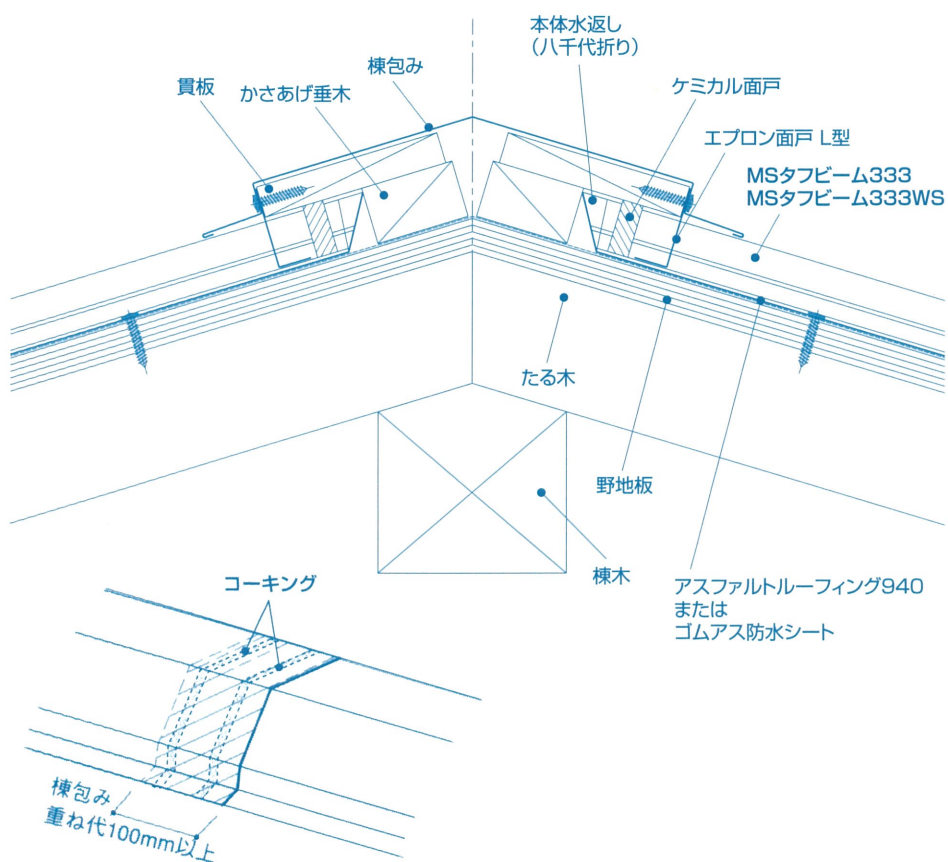


(5) 棟納め構成図



- ケミカル面戸は、アクリル系両面テープ（幅15mm）を剥がし、立ち上げた水上側の本体先端から約30mmほど離して取り付けます。

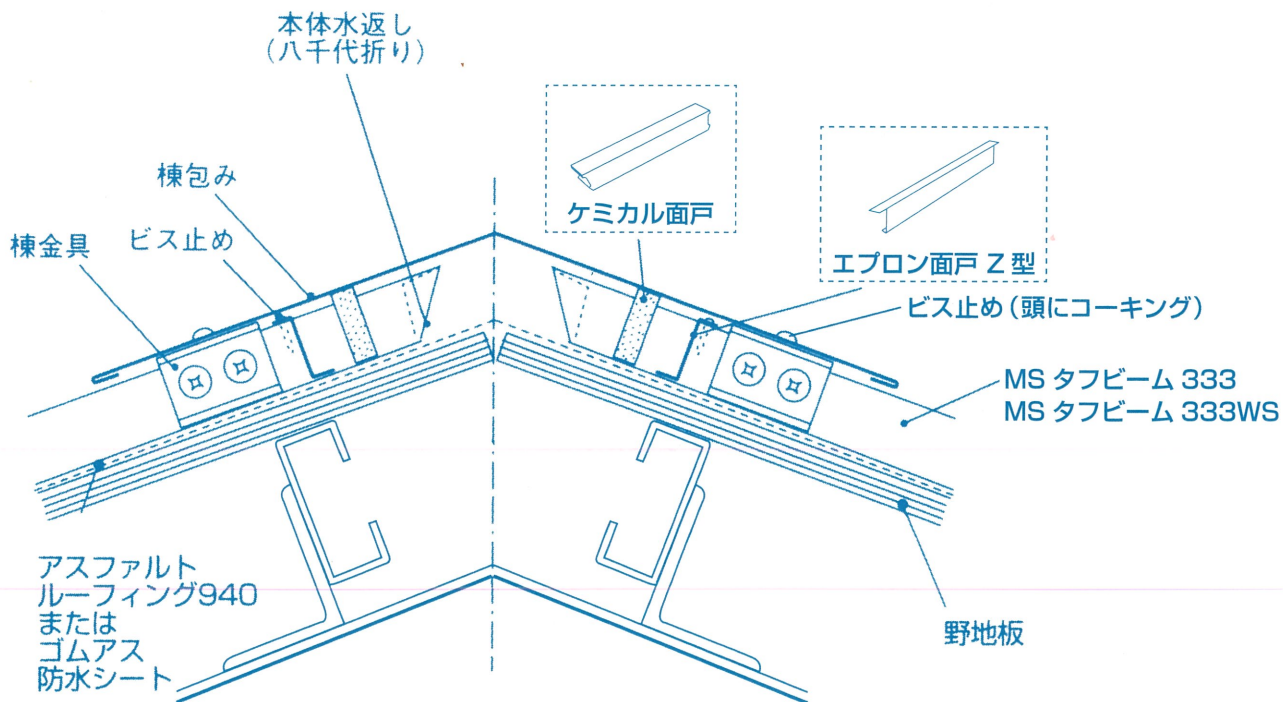
●棟納め (A)



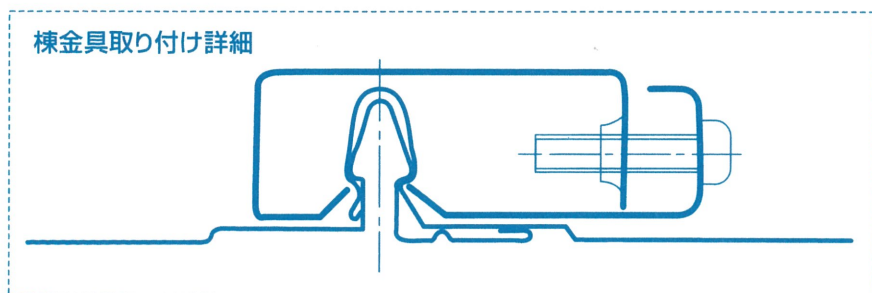
- 棟部にかさあげ垂木を取り付け、その上に貫板を固定します。
- 貫板は必ず防腐剤を塗って使用してください。
- アスファルトルーフィング940またはゴムアス防水シートは反対面まで通して敷き込み、棟部に隙間がないようにしてください。
- 棟包み長手方向のジョイント部は、100mm以上重ね、内部にコーキングを施してください。

●棟納め(B)

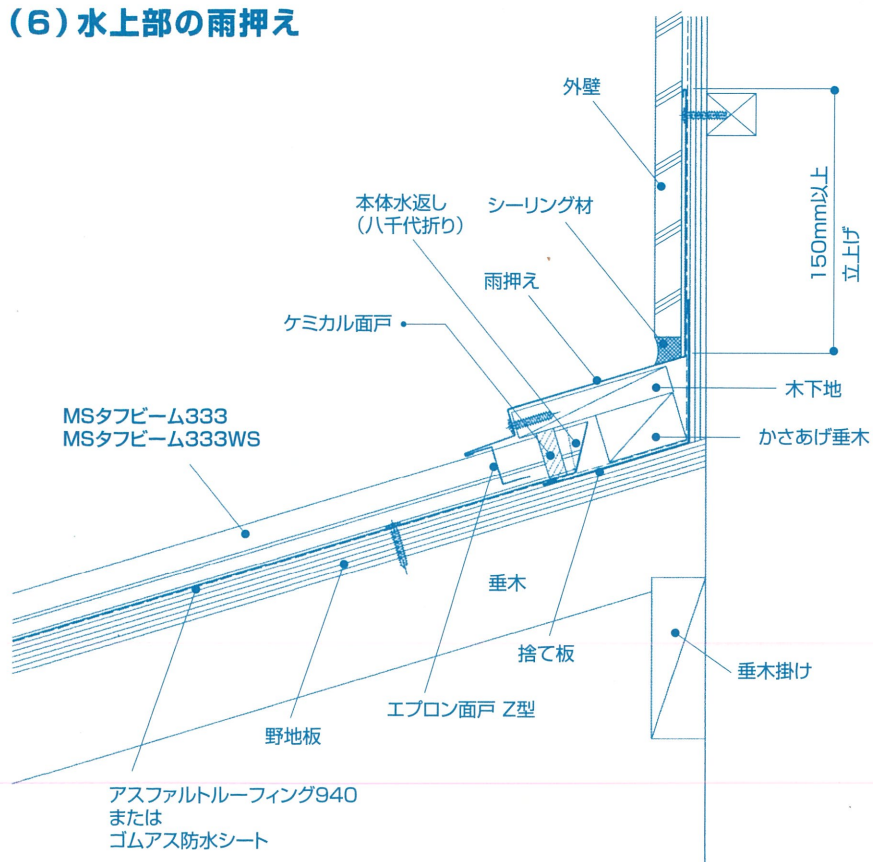
棟金具使用の施行方法



- 棟金具を嵌合部をボルトで締め付けて固定します。
- 葺き板の水上は溝部を嵌合部まで八千代折りに立ち上げて、水返し加工をしてください。
- エプロン面戸・ケミカル面戸を設置し、棟包み板を棟金具にビス止めし、頭にコーキング処理をしてください。

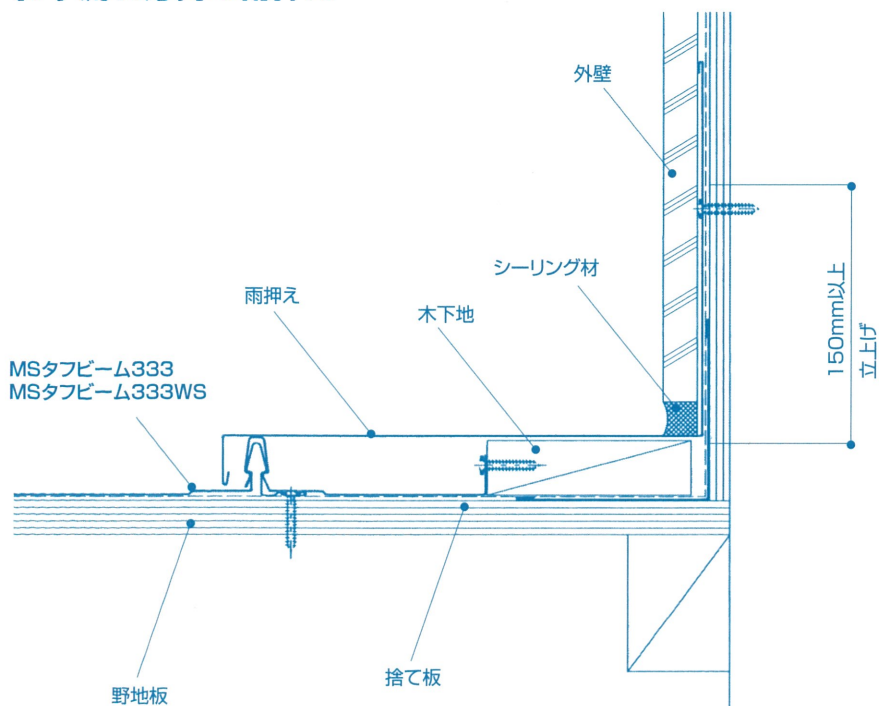


(6) 水上部の雨押え



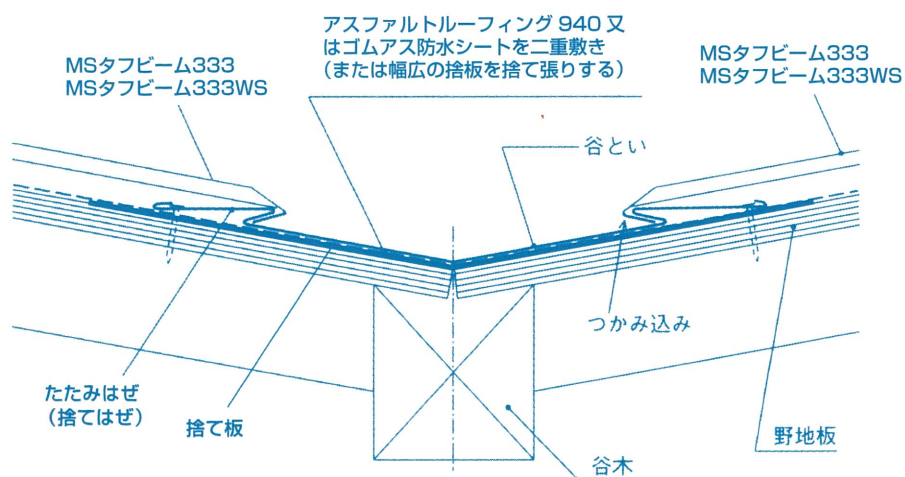
- 葺き板の水上は溝部を嵌合部まで八千代折りに立ち上げて、水返し加工をしてください。
- エプロン面戸・ケミカル面戸を設置します。
- かさあげ垂木の上に、木下地を固定します。
- 雨押さえ板は150mm以上立ち上げ、外壁との取り合い部にシーリング材を充填します。
- 捨て板を入れると、より高い防水効果が得られます。
(現場加工)

(7) 流れ方向の雨押え



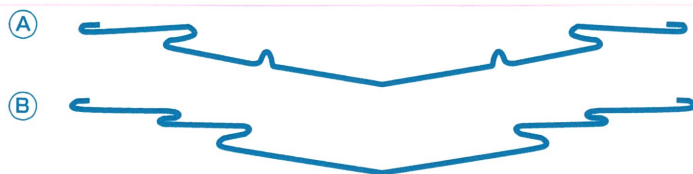
- 葺き板端部は150mm以上立ち上げてください。
- 木下地を固定し、その上に雨押えを取り付けます。
- 外壁との取り合い部は、シーリング材を充填して仕上げます。
- 捨て板を入れると、より高い防水効果が得られます。
(現場加工)

(8) 谷納め



- 谷部に幅広の捨て板を張り付けるか、またはアスファルトルーフィング940又はゴムアス防水シートを二重敷きします。
- 谷といを設置し、葺き板をたたみはぜ部に十分につかみ込んで仕上げます。
- 捨て板を入れると、より高い防水効果が得られます。(現場加工)

※谷といの現場対応例



(注) この施工の手引きは標準施工例です。屋根材、役物等の納めについては、各現場の状況に応じて施工してください。

月星商事株式会社

本社 〒104-8533 東京都中央区八丁堀四丁目4番2号
営業 TEL : 03 (3551) 2125 FAX : 03 (3552) 4079
<http://www.tsukiboshi-shoji.co.jp>

大阪支店	TEL : 06 (6462) 0202	FAX : 06 (6462) 4466
福島支店	TEL : 0247 (62) 6211	FAX : 0247 (62) 6220
北関東支店	TEL : 0270 (65) 3311	FAX : 0270 (65) 8747
小山支店	TEL : 0285 (49) 2311	FAX : 0285 (49) 2317
埼玉支店	TEL : 048 (728) 9111	FAX : 048 (728) 8585
土浦支店	TEL : 029 (831) 8022	FAX : 029 (831) 8010
千葉支店	TEL : 043 (259) 0511	FAX : 043 (257) 2005

神奈川支店	TEL : 046 (263) 2020	FAX : 046 (263) 2035
静岡支店	TEL : 0548 (22) 5241	FAX : 0548 (22) 5631
名古屋支店	TEL : 0561 (31) 0061	FAX : 0561 (31) 0063
兵庫支店	TEL : 0790 (22) 5271	FAX : 0790 (22) 5262
山梨営業所	TEL : 055 (284) 1261	FAX : 055 (284) 1263
高松営業所	TEL : 087 (806) 3311	FAX : 087 (806) 2236
福岡営業所	TEL : 092 (939) 5700	FAX : 092 (939) 5703

■お問い合わせは —————